

- プレスリリース (社) シャンティ国際ボランティア会 - Bangladesh・サイクロン(台風)被害支援事業 Vol. 1

2007年11月15日(木)深夜、風速240kmの暴風雨をともなうサイクロンがBangladesh東南部の海岸を襲撃しました。その犠牲者は約3,000名にのぼり、約30万人が住む場所を奪われました。発生から約1ヶ月経過した今なお、多くの方が行方不明となっています。

日本ではあまり報道されなくなったサイクロン被害ですが、ネットワークを通じた情報収集により、被災地では衣服や家屋を失った状態であるにもかかわらず、朝晩は10℃を下回る環境の中で十分な支援が行き届いていない状況であることがわかりました。そこで、SVAでは調査団を派遣することを決定し、11月28日(水)から本会職員の伊藤と木村の両名が調査のため現地入りしました。

被災地の状況と課題

サイクロン襲撃から2週間が経過した被災地では、被災直後の腐敗した死体や家畜の異臭もなく、突風で飛んできたトタン板や木片の撤去作業が進み、政府や国際NGOを中心に食糧などの緊急物資配布が実施されているなど、一見して落ち着きを取り戻しているかのように見受けられました。

しかし被害の大きかった地域(ボルネナ県)に入ると、家屋が全壊してしまった人々が、元いた村から数キロ離れた幹線道路沿いに、倒れた木の枝や支援物資が入っていたと思われる麻袋などを利用して粗末な小屋をつくり、避難してきた時の着の身着のまま支援を待っています。Bangladeshという暑いイメージがありますが、10月から乾季に入り、特に南部の入り江では朝霧が発生するとぐっと気温が下がってきます。そのため劣悪な環境で十分な食べ物がなく、風邪から肺炎になる子どもも増えており、サイクロンのため生活水の供給源だったため池や井戸が汚染され飲料水が手に入りにくい被災地では、今後の病気蔓延が懸念されます。



道路の両側にある、一時的なお墓・遺体安置所(手前)と、仮の住まいの小屋(奥)



全壊したコミュニティセンター(右)と、センターを利用する地域の人々/アムタリ集落

「家を建て直したいがその前に家族で食べる食糧も無い」被災者が口々に訴えていました。生計手段の全てを失ってしまったからです。11月の米の収穫期、12月のイスラム教のお祭りでヤギなどの家畜が高く売れる絶好の機会直前に地域を襲ったサイクロン「シドル」は91年のサイクロン以上の規模であり、家屋や農作物、家畜へ多大な被害をもたらしました。船や魚網を流されてしまった漁師たちも成すすべもありません。地域では他に生活手段が無いため都会に出稼ぎに行くことにした人もいます。また、学校やコミュニティセンターなど施設が壊れ、子どもたちは教科書、文房具などを失ってしまいました。この災害により長期間にわたって「学習の機会」が奪われることも懸念されています。

このような被災地の現状を鑑みて、SVAとしては支援を検討しています。

お問い合わせ

(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)東京事務所 緊急救援担当: 木村、白鳥
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F TEL: 03-5360-1233
FAX: 03-5360-1220 URL: <http://www.sva.or.jp/> E-mail: eru@sva.or.jp

